

大阪湾漁場環境速報

平成28年2月4日発行
兵庫のり研究所

大阪湾全域においてスケルトネマが優占種として大量発生しており、広い範囲で赤潮が確認されました。そのため、海峡部周辺や河川水等の影響を受けていた湾奥部を除いて、栄養塩（窒素やリン）が低い値を示しました。今後、スケルトネマの発生状況及び栄養塩動向が注視され、風波による海水混合が必要と考えられます。

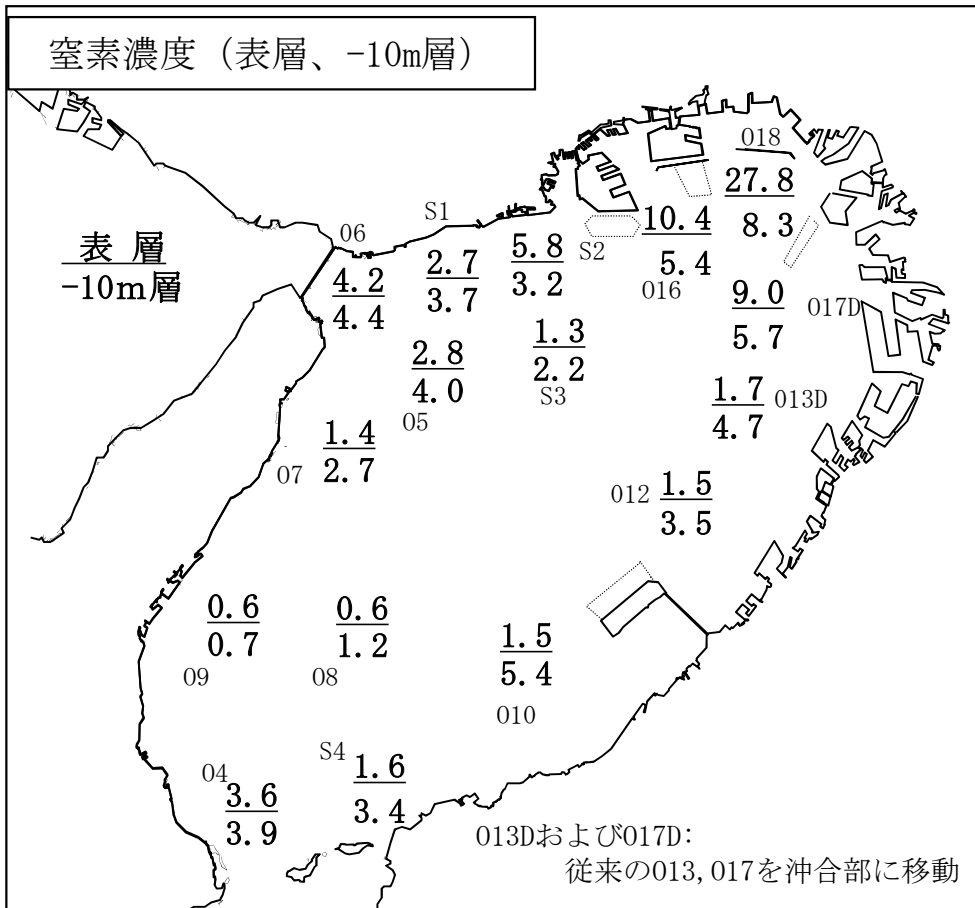
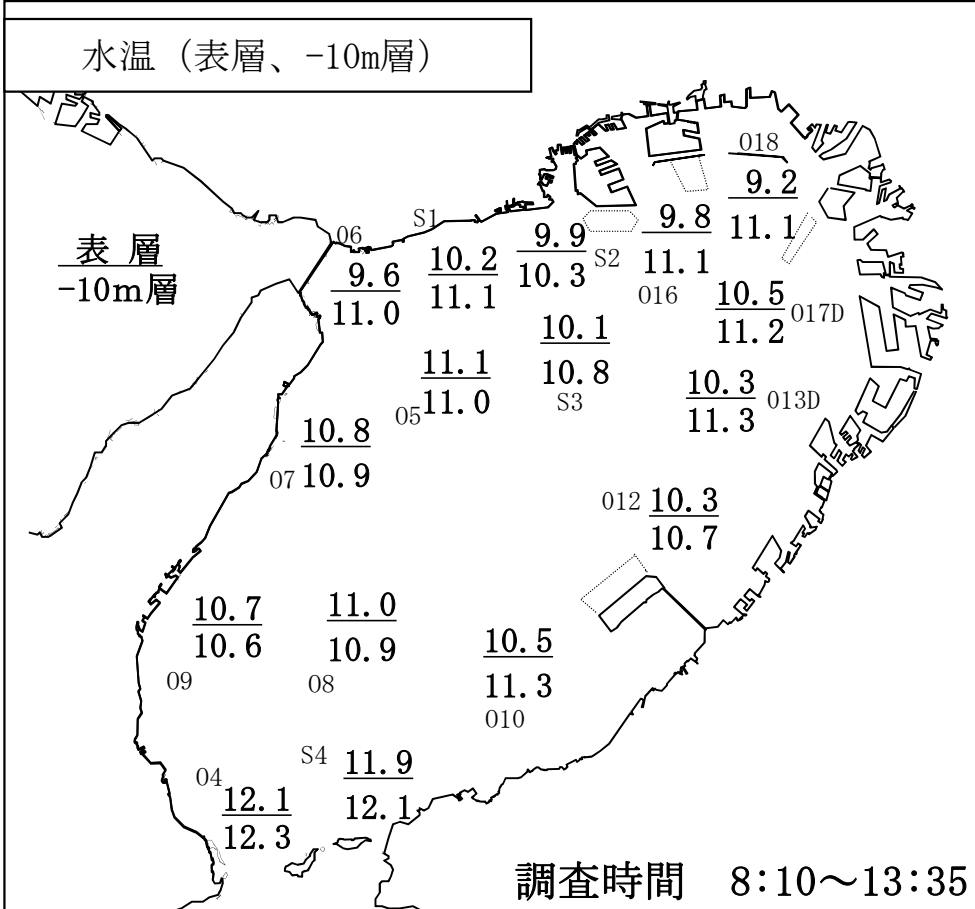
(水温) 表層は湾内9～12℃台で、平均10.6℃。平年比約1.3℃高い。-10m層も平均11.1℃と平年比1.5℃高い状況。

(塩分) 表層平均31.03psu(平年 31.54)。-10m層平均31.88psu(平年 32.24)。

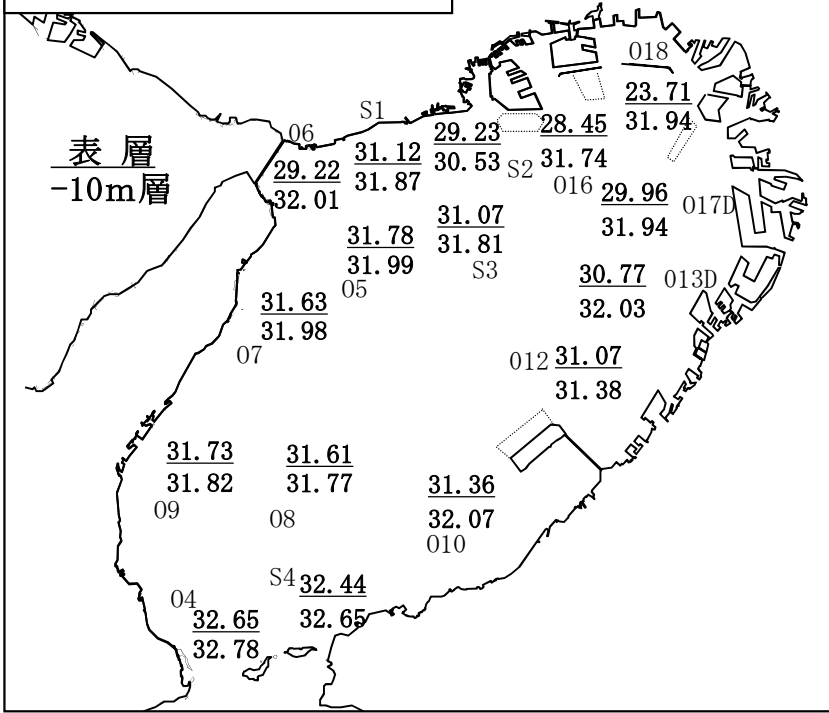
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均2.9μg-at/L、リンは平均0.12μg-at/L。スケルトネマの大量発生による消費で窒素・リンともに大きく減少している。-10m層(平均)は、窒素3.4μg-at/L、リン0.24μg-at/L。-10m層でもスケルトネマが多く確認された調査地点があり、栄養塩が低い値であった。先月末(1/25)調査において神戸地先東部域で確認されたスケルトネマが、湾奥部で大量増殖していたものと予想され、降雨による出水・潮汐や比較的穏やかな天候により湾全域に拡散・増殖したと考えられる。今のところ、明石海峡周辺の窒素は4μg-at/L台であるが、潮流や風波といった大きな環境変動による珪藻の早期沈静化が望まれる。

上段 (今回値)	平成28年2月3日調査
中段 (昨年値)	平成27年2月4日調査
下段 (平年値)	2月上旬

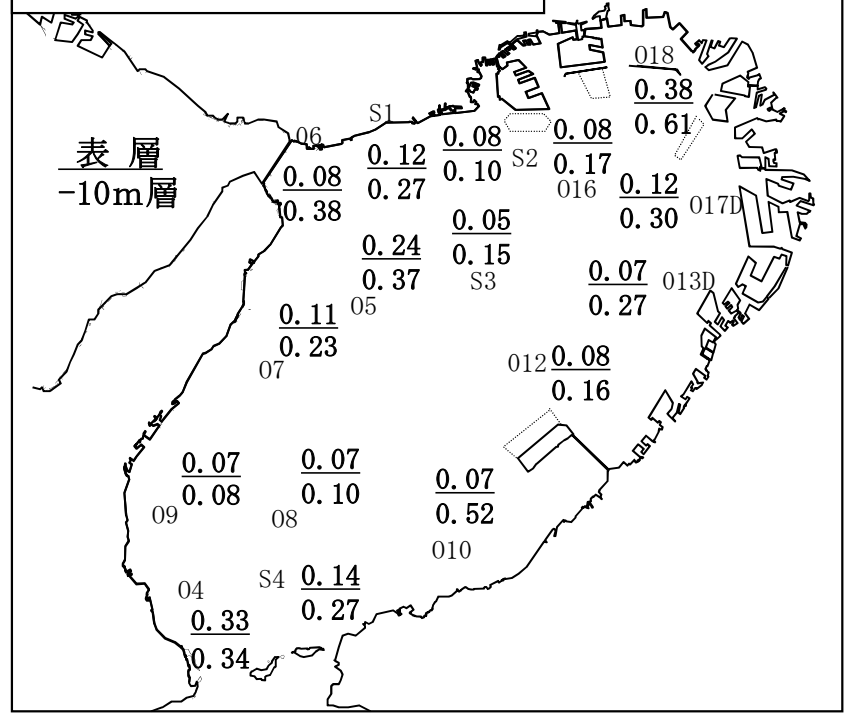
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 (μg-at/L)	燐酸 (μg-at/L)
04	12.1	32.65	3.6	0.33
	10.9	32.08	4.3	0.23
	10.4	32.60	4.4	0.40
05	11.1	31.78	2.8	0.24
	10.5	31.86	4.9	0.40
	9.5	31.94	4.1	0.35
06	9.6	29.22	4.2	0.08
	10.5	31.90	5.3	0.41
	9.2	31.84	5.0	0.33
07	10.8	31.63	1.4	0.11
	10.3	31.65	4.6	0.44
	9.4	32.10	3.5	0.34
08	11.0	31.61	0.6	0.07
	9.7	30.74	1.3	0.09
	10.0	32.16	3.2	0.32
09	10.7	31.73	0.6	0.07
	9.8	30.80	1.5	0.13
	9.9	32.26	3.6	0.35
010	10.5	31.36	1.5	0.07
	9.2	29.61	8.1	0.18
	9.0	31.62	3.8	0.21
012	10.3	31.07	1.5	0.08
	9.0	27.83	17.8	0.49
	8.7	30.87	7.6	0.26
013D	10.3	30.77	1.7	0.07
	9.0	26.06	24.6	0.83
	8.4	29.64	14.5	0.33
016	9.8	28.45	10.4	0.08
	9.8	31.37	4.2	0.19
	8.5	29.30	16.6	0.28
017D	10.5	29.96	9.0	0.12
	10.3	29.61	13.7	0.53
	8.6	29.12	22.6	0.42
018	9.2	23.71	27.8	0.38
	10.8	30.62	10.8	0.49
	8.7	28.08	31.5	0.60
S1	10.2	31.12	2.7	0.12
	10.1	31.75	4.5	0.42
	8.7	31.03	8.9	0.27
S2	9.9	29.23	5.8	0.08
	10.2	31.80	4.5	0.42
	8.6	30.42	10.9	0.24
S3	10.1	31.07	1.3	0.05
	9.9	30.21	8.2	0.23
	9.3	31.42	5.8	0.28
S4	11.9	32.44	1.6	0.14
	9.9	30.75	2.4	0.08
	10.2	32.45	4.0	0.36



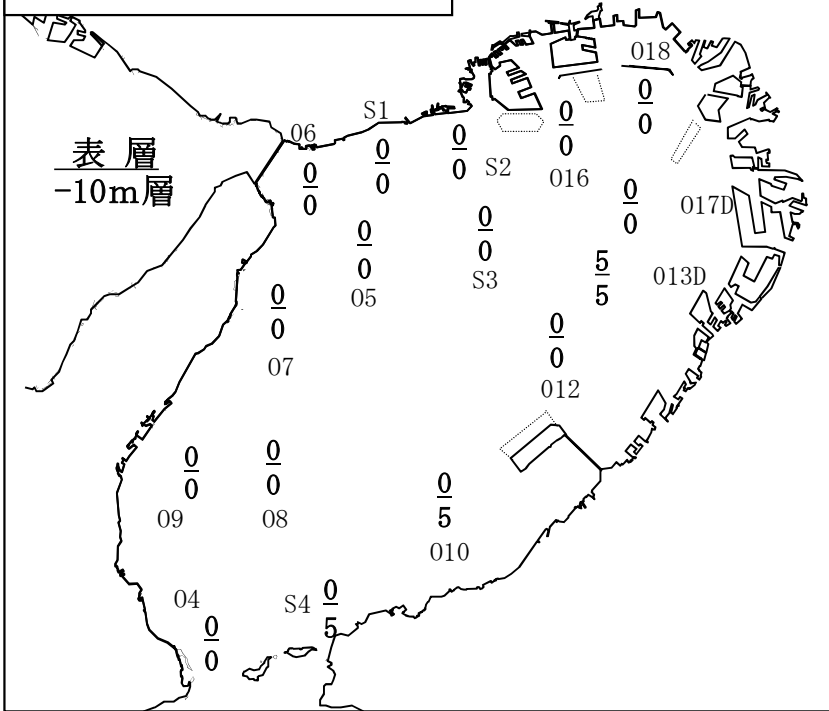
塩分 (表層、-10m層)



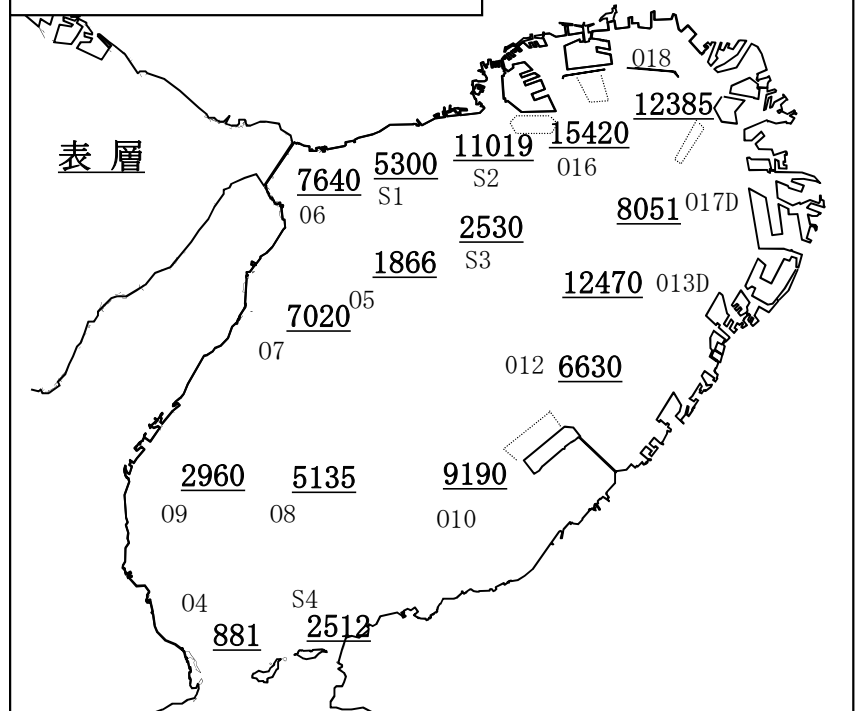
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスクス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

